

二項対立思考に挑戦

～逆の立場で考えてみよう～

- 1 科目名 現代文 B
- 2 単元名 評論
- 3 教材名 「表象としての身体」 鷲田清一
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- ア 近代化を批判する立場で書かれた評論を読み、論理の構造をつかむ。
(読む能力)
- イ 人間や社会の本質を考える態度を身につけ、論理性を高めようとする。
(意欲・関心・態度)
- ウ 二項対立の構造及び身体論の考え方を理解している。
(知識・理解)

②単元の目標設定の理由

全体の内容把握を目標としてきたこれまでの評論読解と違い、近代に対する向き合い方や近代をどのように批判し、何を主張しようとしているかを論理構造を基に読み取ることを目標とし、更には自分自身が論理的に思考し、これからの時代を生きていく上での核となる考え方を身に付ける一助となることをねらい、上記のような目標を設定した。

③中心となる学習活動

普段の授業の流れとして、音読及び黙読→段落ごとの内容確認→全体理解といった流れで行うことが多い。しかし、評論文を読む上での基礎となる知識をもたない生徒が多いため、受身で、自ら考えようとする生徒はわずかしか見受けられない。そこで今回は、考えるきっかけとなる「基礎となる知識」を自ら手に入れさせるということに主眼を置く。そうして、ただ読むだけではなく、脱近代を担う若者たちが自発的に考えようとする姿勢をもつことを目的とする。

メリットとしては、基礎となる考えを身に付けることで、それを発展させた筆者の考えに自ら迫ろうとすることができる。また、進学校においては入試での高度な評論文に立ち向かうための基礎力を養成することができるのではないかと考える。

デメリットとしては、与え方に工夫が必要である点である。一方的に教え込むだけでは従来と変わらずに、あくまで受身であり、自分には関係ないこととして忘却されてしまうだろう。自らの「考える体験」を引き出す工夫を施し、「自ら得た知識」という実感を生徒自身が得られるようにしなくてはならない。また、ゼロからスタートさせては脱落してしまう生徒もいる。そのため、最低限の情報をヒントとして提示しなければならず、ヒントが多すぎても少なすぎても生徒の考えるチャンスを奪うことになってしまうため、適切なヒントを、生徒に応じて与えなければならない。

④言語活動の工夫

今回取り上げた評論では、身体論を基礎において論が組み立てられている。まず、「〇〇の対になるもの」をいくつか考えさせる。その中に「物体」を含んでおき、「物体」の対になるものを確認する。その後「身体は物体か精神か」という問いかけを行い、2年生時までに学んでいる身体論を基にして、二項対立を意識させるところからスタートする。次にどちらが重要であるかを考えさせ、「精神が大切」「身体が大切」のどちらかに手を上げさせる。そしてグループごとに「精神」と「身体」どちらかの立場を指定し、指定された立場の重要性を話し合わせる。又は、隣同士のペアを作り、指定された立場で重要性について交流させる。次に逆の立場が重要だとする意見を各個人で考える。最終的には、最初の質問に「わからない」を加えた3つの内のどれかに手を上げさせる。そのことを通して、「筆者はどのように考えるのか」に興味を向けるように仕向けていく。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	①自らの考えをもち、仲間と積極的に交流しようとしている。	点検 (ワークシート) (評価表) 観察 (机間指導) (発表)	・考えの参考となるヒントを提示する。
読む能力	①筆者の主張を論理構造をもとに正しく把握することができる。 ②自分の意見と比較しながら本文を読み進めることができる。	観察 (机間指導) (発言)	・自分の経験や身近な状況に置き換えて考えさせる。
知識・理解	①近代における身体の捉え方を理解する。 ②近代の考えと筆者の考えを本文から読み取り、論理構造を理解する。	観察 (机間指導) (発言)	・これまでに学習した内容をもとに考えるよう促す。

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を基に、本文の論理構造の核となる部分を導入として学習することで、いつもより自発的に学習に取り組む姿勢が見られた。またグループでの話し合いの中で、「具体例」を踏まえるように指示したことによって、本文を読解する中で「この具体例（引用部分）は何を意味しているのか」というように考えることができる生徒が増えた。 急に授業展開を変えたことで混乱している生徒も見られた。新しい評論に入るたびに行うなど、指導計画を練り直す必要がある。
アドバイス 及び 留意点	<ul style="list-style-type: none"> 最初の考えをつくる時はグループで、反対意見は個人という形で行ったが、概ねよかったのではないかと思う。人任せにしても、最終的には自分の考えをつくらうとする姿勢が多く見られた。 既習の内容であったため形にできただけであったかもしれない。1年生の時から段階的に進めていくことで効果的になるのではないか。
小中学校との系統性	<p>① (中学・第2学年・C読むこと) ア抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。</p> <p>② (中学・第3学年・C読むこと) イ文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p>

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○二項対立の構造を理解し、近代的な考えと脱近代的な考えを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもとに自らの考えを交流する。【Bイ】 自分の考えと逆の立場にたった意見を、根拠を基に考える。【Bイ】 	<ul style="list-style-type: none"> 両方の視点から、根拠をもとに自分の考えを述べることができる。 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の意見で納得できる部分をメモさせる。 ↓ メモを基に自分の意見を構成させる。
2	○第一段落前半の心身二元論について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般論として心身二元論を理解する。【Cイ】 心と身体が別のものであるとする具体例をつくり、交流する。【Bア】 	<ul style="list-style-type: none"> 心身二元論が正しく理解できる。【知】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の具体例を自分の体験で書き直させる。 ↓ 状況に応じて個別指導を行う。
3	○第一段落後半における筆者の主張を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 本文から筆者の考えを把握する。【Cエ】 筆者の考えと一般論を比較して、違いを理解する。【Cエ】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構造に着目して内容を理解できる。【読】 内容理解のポイントが把握できる。【読】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表） 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒との意見交流を通して整理させる。 ↓ 状況に応じて個別指導を行う。
4	○第二段落の内容を把握し、前段との関係性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 「身体が技法である」という内容を正しく理解する。【Cエ】 筆者の考えと一般論を比較して、違いを理解する。【Cエ】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構造に着目して内容を理解できる。【読】 内容理解のポイントが把握できる。【読】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の具体例を自分の体験で書き直させる。 他の生徒との意見交流を通して整理させる。 ↓ 状況に応じて個別指導を行う。
5	○第三段落の内容を把握し、各段落の関係性から本文の論理展開を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 段落ごとの要旨をまとめ、筆者の主張を把握する。【Cイ】 一般論、具体例、主張を正しく把握し、本文の論理構造を理解する。【Cエ】 本文の内容を踏まえ、「心」と「身体」の関係性についてまとめる。【Cエ】 	<ul style="list-style-type: none"> 文章構造に着目して内容を理解できる。【読】 本文の内容に即して自分の考えを表現することができる。【読・書】 ↓ 観察（机間指導） 点検（発表・ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒との意見交流を通して整理させる。 情報を箇条書きにして示させる。 ↓ 状況に応じて個別指導を行う。

6 第1時の学習指導案

本時の位置	1 時間目 (全 6 時間)		
本時の学習目標	ア 二項対立の構造を理解することができる。 (知識・理解) イ 自分の考えをもち、根拠を示すことができる。 (書く能力) ウ 自分の考えを交流し、深めようとする。 (意欲・関心・態度)		
事前の準備	① ワークシートの準備		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の目標と課題の提示	①配布されたプリントに本時の目標を板書する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜするのか」を明確に示し、目的意識をもたせる。
展開 43分	□二項対立となる語句の確認 □本文のテーマの確認	②プリントに示された語句の対になる語句を考える。 ③身体の対になるものは心であることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で意見交流を行わせる。 ・既習の内容を振り返るよう促す。 ・活発に意見交流ができるように促す。 ・周囲の生徒と交流をするように促す。 ・根拠は箇条書きにして示させる。
	□二項対立及び脱構築批評についての説明	④発問についての自分の考えをもつ。 ⑤グループごとに立場を指定して隣同士で話し合いを行う。 ⑥「③で作った逆の考えが重要である」という考えをつくる。 ⑦発問に対する自分の考えを100字で記述する。 ⑧自分の考えが「保守的」であるか「進歩的」であるか分類する。 ⑨身体と物体との違いを考える。	
まとめ 2分	□本時のまとめと次時の予告	⑩プリントを提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者はどちらに重きを置いているか意識して本文を読んでくるよう指示する。

心と身体はどちらが重視されるべきか。

目標イに対する評価規準と評価方法
 [規準]
 発問に対する自分の考えをもつことができる。
 [方法]
 観察 (机間指導・発言)
 [状況Cの生徒への手立て]
 ・具体的な状況を考えさせる。
 ・周囲の生徒と交流をさせる。

目標アに対する評価規準と評価方法
 [規準]
 自分の考えを分類し、逆の立場から見直すことができる。
 [方法]
 観察 (発言・交流)
 [状況Cの生徒への手立て]
 ・これまでに授業で取り上げた内容を思い出させ、参考にさせる。